第１回「ひょうご新観光戦略推進会議」議事要旨

日　時：令和８年 11 月９日（月）10：00～12：00
場　所：兵庫県庁３号館６階 第１委員会室
出席者：勝野委員、木下委員、高橋委員、高山委員、長尾委員、藤原委員、古田委員（座長）

１　産業労働部長挨拶

・本日はご多忙の中、第１回ひょうご新観光戦略推進会議にご出席いただき感謝する。
・兵庫県の令和７年観光入込客数は 1 億 3,117 万人 となり、前年度を約 600 万人上回った。万博効果により神戸・阪神間では来訪者が増加した一方、但馬地域では減少するなど地域差はあるものの、県全体としては増加となった。
・また、県内観光消費額は 1 兆 7,976 億円 となり、前年度比 119.2%増加した。物価上昇分を除いても前年度比約 108%となっており、観光が兵庫県の主要産業となる高いポテンシャルを示している。
・一方で、インバウンド観光消費単価は約３万 9,000 円まで上昇したが、依然として全国平均を下回っている。今後は県内周遊の促進や滞在期間の長期化を通じて、さらなる観光消費の拡大を図る必要がある。
・こうしたなか、神戸空港における国際チャーター便の就航は、本県観光の可能性を大きく広げる契機となっている。2025 年のインバウンド延べ宿泊者数は前年比約 32%増となり、2026 年上半期も前年比 12%増と全国平均を上回る伸びを示している。
・神戸空港を活用した韓国・仁川経由の国際移動は、神戸以西の居住者を中心に高い利便性を有しており、欧米方面へのアクセス手段としても大きな可能性を持つ。便数面での課題はあるものの、神戸空港発着という選択肢の存在自体が大きな意義を持つ。
・こうした良い流れを確かなものにするためにも、昨年度中間見直しを実施した「ひょうご新観光戦略」に基づき、「兵庫の強みを生かしたツーリズムの推進」「戦略的な誘客プロモーション」「受入環境の整備」を柱として、食、温泉、フィールドパビリオンなど兵庫ならではの体験型コンテンツを活用した旅行商品の造成や、神戸空港の就航先を中心としたプロモーションにより、県内周遊型ツアーの造成・拡大に取り組んでいる。
・また、高付加価値旅行者の受入れに向け、通訳ガイドやゴルフツアーガイドの育成・養成や、ユニバーサルツーリズムの推進など、誰もが安心して訪れることができる観光地づくりにも取り組んでいる。
・こうした取組に加えて、県内各地の持続可能な観光コンテンツが評価され、兵庫県が世界最大級の OTA である Expedia による「2027 年の注目旅行先 10 選」に選定された。この選定を好機と捉え、市町や観光協会と連携しながら国内外への情報発信を進めている。
・本日の会議では、ひょうご新観光戦略に基づく取組や成果を検証するとともに、今後重点的に取り組むべき施策について議論いただきたい。
・今後は、ワールドマスターズゲームズ、大阪・関西 IR、神戸空港国際定期便の就航など、本県観光を取り巻く環境が大きく変化する見込みである。2028 年度の次期観光戦略の策定も見据え、本県観光のさらなる発展に向けた戦略の方向性について、忌憚のない意見をお願いしたい。本日の会議が実り大きいものとなることを期待し、開会の挨拶とする。

２　意見交換

【座長挨拶】

・本会議は、委員から率直かつ自由闊達な意見をいただく場として運営していきたい。
・また、３月頃に予定されている第２回会議に向けて、本日の議論を踏まえ意見を取りまとめるとともに、委員の専門的知見や経験に基づく幅広い意見をいただき、新年度や今後５年、10 年先を見据えた具体的な観光施策につながるような前向きな課題解決型の推進会議としたい。

【事務局】

・本日欠席の委員からのご意見を紹介する。

［委員（欠席）］
・神戸空港の国際化を契機として、有馬温泉では韓国・台湾を中心とした利用者の増加を実感しているほか、宿泊とゴルフを組み合わせた旅行需要も見られるなど、神戸空港を活用した誘客やゴルフツーリズムの取組成果が現場で現れている。また、県が推進するユニバーサルツーリズムも高く評価されており、今後は観光協会や観光案内所等を通じたさらなる情報発信を期待する。
・ユニバーサルツーリズムは高齢者向けとのイメージが強いが、小さな子ども連れや三世代旅行とも親和性が高い。温泉、食、自然、文化など兵庫県の観光資源と宿泊施設を組み合わせ、「家族全員が安心して楽しめる旅行」として発信することで、誘客や宿泊促進につなげるべき。
・AI 検索の普及を踏まえ、観光地情報だけでなく、アクセス方法、周遊ルート、公共交通の時刻表、荷物預かり所、コインロッカーなど旅行者が実際に必要とする実用的な情報を、多言語で分かりやすく発信することが重要である。また、観光協会や観光案内所による情報発信を支援するとともに、掲載後も継続的に更新できる体制づくりが必要であり、正確かつ最新の情報が AI 検索に反映されることで、旅行者の利便性向上や兵庫県の評価向上につながる。

［委員（欠席）］
・滞在日数や消費額は観光地の魅力ではなく、国籍など旅行者の属性によって決まる。それは日本人も同じである。長期滞在でも 1 つの拠点に宿泊しながら各地を巡る人もいれば周遊型で移動する人もいる。東京や大阪、京都の泊数が多いのは前者の拠点として選ばれているからである。城崎温泉や有馬温泉は有力な観光地宿泊地ではあるが、例えば京都を拠点に連泊することで、1 泊あたりの宿泊費用を抑え、1 泊だけ城崎に行くといった行動が合理的である。滞在日数を伸ばすなら、滞在日数が多い国の人たちを呼び込むことが必要。そして、兵庫を拠点として使ってもらうためには、山陽新幹線沿線の都市を旅の目的地にしていくことが重要である。

［委員］
・神戸市内ではイベント開催時に宿泊施設の不足や宿泊料金の高騰が見られるほか、元町周辺の宿泊施設の充実が課題である。
・丹波の栗や黒枝豆、但馬牛、カニなど兵庫の食資源は豊富である一方、県産品を購入できる土産物販売拠点が不足しており、観光消費額の拡大に向けて販売機会の充実が必要である。
・ゴルフツーリズムの推進に当たっては、空港とゴルフ場を結ぶ送迎を含めた旅行商品の造成など、旅行会社と連携した受入体制の整備が重要である。
・周遊観光の促進に向けては、スルーガイドを活用した広域周遊ツアーの造成や、多言語対応によるインバウンド需要の取り込みが有効である。
・神戸空港の利便性は高い一方、ポートライナーの混雑が課題となっており、市民生活との両立を図る観点からも、海上交通を含めた二次交通の充実が必要である。
・AI 検索の利用が増加していることから、旅行者が必要とする情報を分かりやすく継続的に発信し、検索されやすい環境を整備することが重要である。
・DMO に求められる役割の高度化を踏まえ、観光データを収集・公表するだけでなく、明確な KPI を設定し、施策の立案や効果検証に活用していく必要がある。
・短期的な取組として、観光消費額や周遊促進などの目標達成に向けて、必要なデータの収集方法や分析手法を整理し、データに基づく観光施策を推進することが必要。

［委員］
・県が推進する東アジア・欧米豪・首都圏向けの誘客施策は順調に進んでおり、各地域でもその効果が現れている。今後は各施策をさらにブラッシュアップしていくことが重要である。
・スルーガイドの育成は重要であるが、語学力だけでなく案内品質や満足度向上につながる実践的な教育・研修の仕組みが必要である。
・神戸空港の利用拡大に伴い、ポートライナー以外にもバス、船舶、空飛ぶクルマなど多様な交通手段を活用したアクセス環境の整備を進めるべきである。

・地方部では観光客の利用を前提としたバス停整備や案内機能の充実など、受入環境の改善が必要である。
・地方における運転手不足や交通課題への対応として、自動運転技術の導入促進は観光振興や地域活性化の観点からも有効である。
・観光産業を支える外国人材や留学生は重要な戦力であり、地域で活躍しやすい環境整備や制度改善に向け、官民連携で国に声を上げていくことが必要である。
・観光人材の育成に向けて、特色ある教育プログラムや専門人材の育成環境の充実を図ることが重要である。
・淡路高校の調理コースのように、島外からも人材を呼び込める特色ある教育環境を整備し、食や観光分野を支える次世代人材の育成につなげるべきである。また、高校生レストランのようなイベントを通じて生徒の活動を広く発信し、次世代人材の育成や地域の魅力発信につなげることが有効である。
・インバウンド宿泊者数の増加は神戸市への集中が大きく、増加分の大半を神戸市が占めていることから、神戸市だけでなく県内他地域へも誘客や周遊促進に取り組む必要がある。

［委員］
・宿泊業の人材育成においては、事前・事後の研修を実施することが重要。例えば、実習前に接客や地域文化に関する事前学習を充実させることで、学生が円滑に実習へ移行できる効果が見られた。抹茶の提供や浴衣の着付けなど宿泊業務に必要な基礎知識・技能をあらかじめ学ぶことが重要である。
・こうした事前学習やフォローアップの仕組みは、外国人材の受入れや定着支援にも応用できる可能性があり、大学等との連携による人材育成が有効である。
・外国人材の定着に向けては、定期的なフォローアップや学習機会の提供など、受入れ後の支援体制の充実も重要である。
・ムスリム旅行者の受入れ環境整備として、岡山県のピーチマークのように、対応可能な飲食店や施設を分かりやすく可視化し、地域単位で情報発信していくことが有効である。
・AI の活用は観光分野や教育分野で急速に進展しており、今後の人材育成や観光振興において重要なテーマとなっている。韓国の大学では、AI と他分野との融合を重視したカリキュラム改革が進められており、教育機関への支援とも連動している。
・観光分野においても、AI の活用を前提とした人材育成や教育内容の見直しを進める必要がある。

［委員］
・KPI については、観光消費額や消費単価に加え、中長期的な視点で、観光による CO_2 排出量や脱炭素の取組状況、地域への経済還元率など、持続可能性の観点を取り入れた指標の設定が必要である。
・地産地消の推進や地域内調達の拡大により、観光消費が地域経済へどの程度還元されているかを可視化することが重要である。
・オーバーツーリズムは観光客数だけでなく、一極集中やマナー違反等によっても発生するものであり、民泊を含めた地域住民への影響を把握する必要がある。
・持続可能な観光に関する国のガイドライン改訂も踏まえ、中長期的な視点で持続可能性に関する KPI を設定することが望ましい。
・ウェルネスツーリズムについては、観光コンテンツが健康や心身への効果につながることを具体的に示し、ストーリー性を持って発信することが重要である。その際に、神戸牛もいいが、ベジタリアンが増えていることもあり、動物福祉などの観点に配慮し、発信には注意が必要。
・日本の高齢化を見据えたらユニバーサルツーリズムの必要性が高まる。高齢者や障害者だけでなく、幅広い旅行者が利用しやすい環境整備や情報発信を進める必要がある。
・フィールドパビリオンは玉石混交。地域への貢献度や持続可能性の観点から評価し、その価値を見える化し、ストーリーを含めた発信する仕組みが必要である。
・観光事業者もどのようなものがサステナブルの取組なのか分かっていない。持続可能な観光

に取り組む事業者や観光コンテンツについて、表彰制度や認証制度等を通じた発信を強化することが重要である。
・AI 検索や OTA のアルゴリズム変化を踏まえ、多言語による情報発信や国際基準に対応した情報提供を進める必要がある。
・EU で行われた消費者保護指令の発効で、グリーンウォッシュにならないようサステナブルな取組を PR するのであれば、「第三者」認証やエビデンスが必要となった。こういった動向を踏まえ、県内事業者の認証取得や制度理解を支援することが求められる。
・地域における若者の定着や雇用創出などにつなげるためにも、若者がいったん県外に出てもまた帰ってきたくなるような地方創生的観点から、地産地消や雇用状況など観光が地域社会に与える効果についても指標化を検討すべきである。
・神戸空港の利用拡大に伴い、神戸空港を利用する方が環境にやさしいというイメージ作りが必要。空港会社等と連携して、CO2 排出量と森林保全による CO2 固定量をオフセットするなど、観光を通じた脱炭素や森林保全等への貢献を促進する仕組みづくりが考えられる。
・TIA（ツーリストインパクトアセスメント）により、観光利用が自然環境、地域文化継承や生物多様性に与える影響を把握し、環境負荷の低減と観光振興の両立を図る必要がある。
・県の様々な取組が商談会等につながっていない。サステナブルな観光資源や事業者と旅行会社との連携を強化し、販売促進や情報共有を進めるべきである。
・城崎温泉の「冷体験」のような取組については、体験価値だけでなく脱炭素効果、省エネルギー効果等も含めて、データで評価・発信できると世界から認められやすくなる。
・兵庫にはフィールドがあるので、持続可能な観光や地域に役立つという視点を持って、県が教育機関と連携し、観光人材の育成を進める必要がある。
・戦略に文化を観光活用する記載がない。文化財、工芸品、祭りなど兵庫県にはすばらしい文化観光資源がある。観光振興を通じて地域文化の継承や地域活性化につなげる視点が重要である。オーバーツーリズムにならないよう、地域との合意形成を図りながら適切な情報発信と活用を進めるべきである。

［委員］
・神戸空港アクセスについては、ポートライナーの混雑緩和に向けてバス輸送などの実証実験を実施しているが、最適な交通手段の確立には至っていないものの、不可欠であり、引き続き取り組んでいく。
・自動運転タクシーや自動運転バスは地方の移動課題解決に有効な手段として期待される一方、事業採算性や技術的課題も多く、本格実装には中長期的な支援が必要である。
・自動運転バスの実証実験については、単年度予算では十分な検証が難しく、実用化に向けては複数年にわたる継続的な投資と検証が必要である。国策として取り組むべきではないか。
・兵庫県が起債許可団体となったことを踏まえ、観光分野への予算措置に影響が生じないのか、また成長分野である観光に対して今後も重点的に予算を確保していく方針であるのか。
・Expedia による「2027 年の注目旅行先」への選定について、従来から有馬温泉や神戸ビーフなどの知名度は高かった中で、「兵庫」という地域ブランドがどのような評価を受けて選定につながったのか、その要因について教えてほしい。
・ファムトリップについては、一時的な誘客効果にとどまらず、継続的な商品造成や送客につながっているかを検証する必要があるが、継続的に取り組む企業があるのか。効果が一時的なものならば、むしろ観光案内所のような機能があればいい。
・レップは誰が主体となっているのか。事業者に成果について責任を持たせることも必要。
・留学生や県内在住外国人、観光大使等の人的ネットワークを活用し、これらの方々からの口コミや SNS を通じた効果的かつ低コストな情報発信の取組もあるのではないか。
・周遊観光の推進に当たっては、民間事業者のみでは継続的な運営が難しい場合もあるため、DMO や自治体等と連携しながら持続可能な仕組みづくりを進める必要がある。
・瀬戸内エリアなど広域周遊の取組については、交通手段やプロモーションのあり方を含め、関係機関と連携しながら継続的に展開していくことを考えてほしい。

［事務局］

・質問いただいた予算についてお答えする。
・県は現在、起債許可団体となっているが、公債費負担適正化計画が認められれば起債は可能であり、必要な投資を継続していく考えである。
・投資事業については一定の見直しや抑制を行う一方、限られた財源の中で将来につながる分野へ重点的に投資する「ワイズスペンディング」の考え方に基づき予算編成を進めている。
・産業労働部全体として予算のシーリングはあるものの、一律に事業費を削減するのではなく、成長が期待できる分野へ重点的に配分する方針である。
・観光は成長産業となり得る重要分野と認識しており、必要な施策については優先的な予算配分を検討していく。
・観光関連予算について一律 10%削減といった考え方は取っておらず、観光振興に必要な事業を見極めながら予算を確保していく。
・観光関係者や事業者との対話を重ねながら、観光産業の成長に必要な施策や財源確保のあり方を検討し、引き続き観光振興に取り組んでいく。

［事務局］
・質問いただいた Expedia の選定理由についてお答えする。
・Expedia が発表した「2027 年の注目旅行先」への選定は、前年と比較した検索数の伸び率が評価されたものであり、兵庫県は検索数増加率で上位に選出された。
・Expedia への聞き取りでは、検索数増加の背景として、姫路城、有馬温泉、城崎温泉、神戸牛など兵庫ならではの観光資源の魅力が評価されたとのこと。
・姫路城については、世界遺産としての価値に加え、規模や保存状態の良さも評価要因となっている。
・兵庫県は都市観光に加え、自然、歴史、文化、温泉など多様な観光資源を併せ持ち、それらを一体的に楽しめる点が強みとなっている。
・大阪・京都からのアクセスの良さや、広域観光の拠点として旅行計画を立てやすい点も評価されている。
・検索数の増加は「兵庫」単独ではなく、「兵庫×温泉」「兵庫×食」など、具体的な観光コンテンツと組み合わせた検索が増加した結果と考えられる。
・個々の観光資源の魅力に加え、多様な観光コンテンツを有する地域としての総合力が評価された結果である。

［委員］
・姫路城や有馬温泉などの観光資源は従来から存在している中で、なぜ近年になって検索数が大きく増加したのか、その要因分析について教えてほしい。

［事務局］
・検索数増加の要因として、昨年度から実施している OTA 施策により、食、文化、観光体験など兵庫県の魅力を英語版特集ページ等で発信し、旅行者が情報にアクセスしやすい環境整備を進めてきたことが挙げられる。
・海外向け観光レップ事業を通じて、主要な旅行メディアや旅行雑誌への記事掲載、ファムトリップの実施などを継続的に行ってきた結果、兵庫県の認知度向上につながっていると考えられる。
・検索数増加の明確な要因を特定することは難しいものの、継続的な情報発信やプロモーションの効果が一定程度表れている可能性がある。
・長期間滞在の旅行者や、リピーターの増加等が、ゴールデンルート以外の観光地への関心の高まりにつながっている傾向が見られる。
・こうした旅行動向の変化により、多様な観光コンテンツを有する兵庫県が旅行先として注目され始めていると考えられる。

［委員］
・これまで県が継続して取り組んできた OTA 施策や海外向けプロモーション、観光レップ事業

などの成果が積み重なった結果であり、その取組が評価されていることは関係者にとっても励みになる

［事務局］
・質問いただいた瀬戸内エリア周遊観光の取組について、お答えする。
・広域周遊の推進に当たっては、関西観光本部に加え、せとうちDMOとの連携が重要である。
・せとうちDMOの観光成長戦略の改定に合わせ、兵庫県職員を追加派遣し、神戸空港の国際化を踏まえた兵庫県の位置付け強化に取り組んでいる。
・神戸空港がある兵庫を瀬戸内エリアの東のゲートウェイとして位置付け、兵庫県内周遊や、淡路島・四国方面、姫路・岡山・広島方面への広域周遊促進を図ることが重要である。
・関西国際空港との役割分担を踏まえ、神戸空港からの誘客を県内各地や西の瀬戸内地域へつなげる戦略を推進している。
・兵庫県単独での取組には限界もあることから、せとうちDMOや関西観光本部など広域的な枠組みを積極的に活用する。
・国の支援制度や広域DMOのプロモーション予算も活用しながら、兵庫県を中心とした広域周遊ルートの形成と情報発信を進めている。

［委員］
・瀬戸内エリアについては、これまで以上に連携を深めていきたいと考えている。
・一方で、バスツアーの造成など、後発組として参画することが難しいと感じる場面もあるが、今後ともよろしくお願いする。

［座長］
・良いコンテンツがあれば、お互いに連携を進めていくことが、良い掛け算に繋がっていくと思う。私たちも自信を持って発信していきたい。

［事務局］
・兵庫県単独で進めることは難しいため、例えば航空会社と連携し、テロワール、温泉、フィールドパビリオン、ゴルフツーリズムなど兵庫県の強みを生かした周遊ツアーの造成を進めている。
・台湾の旅行会社と連携し、航空券とセットで販売できる具体的な旅行商品を造成することで、神戸空港を活用した誘客拡大を図っている。
・ツアー造成に当たっては、公共交通機関のないエリアでのバス活用など二次交通を含めた実効性のある行程づくりが重要であり、観光関係者や､ひょうご観光本部に出向頂いている旅行業経験者の知見を活用しながら検討を進めている。
・ゴルフツーリズムは、食や温泉など他の観光コンテンツとの親和性が高く、高付加価値旅行者の誘客につながる有望な分野である。
・来年2月発表の神戸・淡路エリアを対象としたミシュランガイドを契機として、高付加価値旅行者向けの新たな観光ルートの造成が期待される。
・ミシュランガイドを活用した周遊ツアーやプロモーションの可能性について意見交換を行っており、国内外の高付加価値層の誘客につなげていきたい。
・神戸空港イン、淡路島ステイ、高松空港アウトのワンウェイルートなど、神戸・淡路・四国などを結ぶ周遊ルートについて、ハイクラスバスの活用も含めた具体的な商品化を検討している。
・食、温泉、ゴルフ、フィールドパビリオンなどを組み合わせた県内周遊モデルの構築により、西日本エリアにおける広域観光の推進につなげていく。

［委員］
・神戸空港の利用促進に向けては、空港周辺や空港アクセス道路の渋滞が課題となっており、県内各地からのアクセス向上や周遊観光促進の観点からも、道路交通環境の改善が必要である。

・ポートライナーの混雑は神戸空港利用者の増加に伴う課題となっている。神戸市と対応策を検討する必要があるので、県も連携してほしい。
・神戸空港を起点とした広域周遊の促進には、新神戸駅とのアクセス向上が重要。渋滞緩和策に加えて、ループバスがあるといい。
・インバウンドや観光客の受入れるための人材が地域におらず、対応が出来ていないところがある。地域における観光人材の確保やＵターン・定住促進の観点からも、観光による地域への効果を分かりやすく伝え、地域全体で観光を支える意識を醸成する施策が必要である。
・丹波篠山など魅力的な観光資源を有する地域では、景観や文化的価値の背景にあるストーリーを効果的に発信し、観光地としての魅力向上につなげる必要がある。地域ごとの観光振興力を高めるため、観光協会の情報発信力や受入体制の充実など、地域間の取組水準の向上が重要である。
・インバウンド施策に加え、国内観光客の誘客強化も必要であり、首都圏などへのプロモーションをさらに充実させるべきである。
・兵庫県の認知度向上に向けて、県全体の魅力を発信する取組を強化するとともに、県内各地への誘客促進を図る必要がある。
・県内における宿泊拠点の充実や滞在環境の整備を進め、周遊観光や滞在型観光の促進につなげることが重要である。

［委員］
・スーパーヨットをはじめとする富裕層の船舶受入れを進める上では、（海洋投棄にならないよう、また国際規格で必要とされている）し尿浄化施設が重要である。
・ブルーフラッグなどの国際認証を取得したマリーナでは、環境配慮や受入基準が整備されており、県内施設においてもこうした国際基準への対応状況を確認することが重要である。

［事務局］
・スーパーヨット等の受入れに関する国際基準や認証制度については、十分に把握できていない部分もあり、今後確認していきたい。
・従来の新西宮ヨットハーバーのほか､神戸では現在、アリーナ周辺を中心にスーパーヨットの受入れ環境整備が進められており、受入基準や国際的な評価・認証の状況について確認していく必要がある。
・神戸だけでなく、姫路、洲本、淡路交流の翼港など県内各地の港湾・マリーナについても、国際的な船舶受入れに対応できる水準や認証取得状況を把握していきたい。

［座長総括］
・本日の議論を通じて、観光情報や地域資源、地域のストーリーなどを効果的に発信するとともに、県の取組も含めて国内外へ継続的に情報発信していくことの重要性を再認識した。
・観光振興に当たっては、旅行者の満足度だけでなく、地域への経済的・社会的な還元や、若者の定着、人材育成といった地域住民の幸福度や持続性の視点も重要である。
・各種施策や観光コンテンツについては、質の確保が重要であり、産学官が連携しながら取り組んでいく必要がある。
・本日の意見については庁内関係部署とも共有し、今後の施策検討に生かしていただきたい。また委員においても、それぞれの立場から関係者等へ情報共有いただき、観光振興に向けた機運醸成に協力をお願いしたい。
・本日の議論を踏まえ、今後追加の意見等があれば事務局へ連絡いただきたい。 次回会議では、本日の意見を踏まえた具体的な施策や戦略・戦術、アクションプランについて議論を深め、取りまとめていきたい。

３　閉会挨拶【事務局】
・本日いただいた生成 AI、二次交通、次世代人材・外国人材の育成、脱炭素、神戸空港効果の波及、若者のＵターンにつながる観光地域づくりなどの意見は、今後の観光戦略見直しに向けた重要な示唆となった。

・昨年中間見直しを行った観光戦略の基本的な方向性は維持しつつ、施策・事業の精度を高め、成果が目に見える形で現れるよう取り組んでいきたい。
・中長期の取組と併せ直近でも、来年度前半に予定されている、台湾・高雄便の就航、ミシュランガイド神戸・淡路島の発表、ワールドマスターズゲームズ関西などを契機として、ツアー造成や誘客促進を進めていく。
・ミシュランも活かし、食、テロワール、温泉、ゴルフなど兵庫県の強みを生かした旅行商品を造成し、航空会社、二次交通事業者等とも連携しながら県内、さらには西日本周遊の促進につなげていきたい。
・ワールドマスターズゲームズ参加者や同行者に対する周遊観光促進にも取り組み、近隣地域と連携した誘客を進めていく。
・各施策の推進に当たっては、宿泊事業者、交通事業者、地域 DMO など関係者と連携しながら進めることが重要であり、引き続き協力をお願いしたい。